おおさわ学園

おおさわ学園

平成２７年度　おおさわ学園の評価・検証　結果報告

検証項目	（１）　人間力・社会力の育成 ○他者との適切な関係を構築する力の育成　○他者と共に自己実現を図っていく力の育成　○地域や社会等へ貢献する力の育成　○その他
目標	①キャリア・アントレプレナーシップ教育の充実 ②特別支援教育との交流充実
取組	①－１地域人財を生かしたキャリア・アントレプレナーシップ教育を推進する。 ①－２キャリア・アントレプレナーシップ教育のカリキュラムを実施する。 ②－１わかば・E組と通常学級との相互理解のための交流を実践する。 ②－２教職員間でのわかば学級・E組参観による交流活動を開発する。

成果	課題と改善方策
①年間計画に沿って、キャリアアントレ教育への人財活用や教育資源を3回以上活用し、学習活動に対する児童の満足度も70％以上であった。 ②E組と小学校の交流は、ふれあいタイムを活用した。大沢台小のわかば学級と羽沢小の交流は、自然教室やそれに向けた小小交流で実践した。校内での交流は、普段の授業だけでなく学年行事等を通して交流を行った。その結果、年間2回以上の交流ができ、交流の意義を感じた児童は60％以上であった。	① ・キャリア・アントレプレナーシップ教育のさらなる充実を図るため、小・中9年間の系統性がある全体計画・年間指導計画を作成する。 ・さらに大沢地域の人財・資源を開発し、それら活用した指導計画を工夫し、児童・生徒が満足感もてるような学習活動となるようにする。 ② ・児童の満足度は、学校によって60％から90％と差がある。前回より向上しているが、満足度の低い児童の理由を分析して、さらに交流の質を向上させる。 ・通常学級と支援学級との交流が計画通りには実践できなかった。計画通りに実践するためには、年度初めには交流の計画を完成させておく必要がある。交流の実施が難しい場合は、支援教育の充実のための実現可能な具体的方策を検討する必要がある。

検証項目	（２）　学校運営について ○小・中一貫教育校の学園組織の活性化　○小・中一貫教育校の教員間、学校間の交流の円滑化　○小・中一貫教育校の校務、会議の効率化　○その他
目標	①児童・生徒の育成に関する課題（学力・体力・生活指導）についての小・中連携 ②防災教育の充実
取組	①－１小・中合同で課題解決のための事例研究を実施する。 ①－２いじめのない学園づくりのため、学園間の交流や児童会、生徒会合同の「いじめ撲滅運動」の取組、挨拶運動を活発にさせる。 ②小・中連携した防災教育の年間計画を策定する。

成果	課題と改善方策
①学園研究や学園分掌等を通して、それぞれの課題について共通理解を図ることができた。特に、生活指導上の課題について、3校で重点化して取り組んだことで、一貫した指導を行うことができた。 ①児童・生徒会代表者会議で、小・中連携して、いじめに関するスローガンを作成して、その成果を報告し合った。 ②3校の生活指導主任を中心に、「学校避難所運営マニュアル」に連動した合同の引き渡し訓練を、今年度初めて計画を立て、実施することができた。	①児童・生徒の育成上の課題に対して、今後も継続して共通理解を図るとともに、経年変化を捉えて適切な指導ができるようにしていく。 ①児童・生徒会代表者会議を年3回設定し、いじめ防止の取組を年間を通して学園全体で実施し、第3回目の会議にその成果を検証する。 ②七中の保護者にとっては初めての引き渡し訓練であったため戸惑いも多かったが、今後その意義の啓発を図り、防災意識をさらに高めていく。

検証項目	（３）　小・中一貫教育校としての教育活動 ○小・中学校間相互乗り入れ授業　○小学校相互、小・中学校間の児童・生徒の交流活動　○小・中学校教員の合同授業研究等の学園研究会 ○キャリア教育及びそれに基づく小・中の系統性と連続性を明確にした授業実践、授業改善の状況　○その他
目標	①ふれあいタイムの充実 ②学園研究における学力向上の検証
取組	①ー学習意欲につながるふれあいタイムをを行う。 ②1算数・数学に重点を置いた指導法の実践。

成果	課題と改善方策
①今年度、中学3年生と小学4年生のふれあいタイムを中学3年生が小学4年生があらかじめ作った俳句の指導をするというものにした。ふれあいタイムの内容は、中学3年生が小学4年生の心情を話し中からうまく引き出し、それについて、アドバイスするという具合で、活発なやり取りができ、俳句作りという楽しさをお互いに知る時間になった。 ②2年間の研究協力校としての「算数・数学」の問題解決型の授業の指導方法については、3校とも統一した形式のものができ、児童・生徒への指導方法の定着とともに、実践を進めることができた。	①中学1年生と小学3年生のふれあいタイムが、学習意欲につながるものを作れなかったので、来年度は、全学年とも、授業を通したふれあいタイムを企画していく。 ②問題解決型の授業を確立し、その実践も進んでいるが、習熟度別の教材開発がまだの単元があるので、その点を来年度は進めていく。

検証項目		（４）　児童・生徒の学力・健全育成 ○　児童・生徒の学習意欲　○　各学年での児童・生徒の学習内容の定着状況（習得、活用、探究） ○　小学校と中学校の評価の一貫性　○　不登校、学校不適応等に関わる児童・生徒の指導・支援
目標	学力	①学習内容の定着 ②体力の向上
	健全	①地域ボランティア活動の充実 ②児童・生徒会の連携と心の教育
取組	学力	①－1「確かな『学び』を育む授業方法の実践を行う。 ①－2家庭学習の冊子「おおさわ学園版」による家庭学習の定着を図る。 ②－1体力調査結果の共有を図り、実態把握による指導の重点化を図る。
	健全	①－1中学生の地域ボランティア活動を充実させる。 ①－2地域行事ボランティアに小学生を参加させる。 ②－1児童会・生徒会を中心に、交流活動を推進する。 ②－2共通のテーマを掲げ、学園として「いじめ」や「命」の問題を考える。

成果	課題と改善方策
学力 ①学園研究を通して、問題解決型学習が、算数・数学の授業を中心に各教科で定着しつつある。 ①学園アンケートでは、家庭学習の定着状況についての肯定的評価は、昨年度約61％だったが、今年度は約66％に増えた。微増だが、家庭学習が定着してきていると感じている保護者が増えている。 ②マラソン週間やマラソン大会を継続して実施しているため、3校とも持久力について全国の平均を上回る学年が多い。また、体育朝会の充実や縄跳び週間の設定など体力向上を図る取組、日常的な取組が充実してきている。	**学力** ①問題解決型学習について、今後も実践を重ね、指導方法等を工夫していく。アクティブ・ラーニングの授業について研修を重ねていく。 ①年間を通した家庭学習の習慣づけはできてきたが、なお協力が得られない家庭、児童に対して家庭学習の必要性をどのように伝え、実践させていくかが課題である。また、学年と自主学習の割合の目安表を各家庭に配布したが、それがどの程度実践できたか検証していく必要がある。 ②体力調査の結果、投げる力に課題があるのは3校共通している。各校が行っている一校一取組について情報交換しながら、3校共通で取り組める内容を模索していく。
健全育成 ①中学校では、地域行事にボランティアとして、多くの生徒が参加した。特に秋の地域行事では、教員・生徒、全校体制で実施でき、高い評価を得た。小学校でも、地域活動ボランティアへの参加率は、担任による呼びかけもあり、両校とも増えてきている。 ②児童・生徒代表者会議を年間3回実施した。例年通りのあいさつ運動や募金活動の話し合いに加え、いじめ防止の取組ついての話し合いも行った。その結果、いじめ撲滅スローガンを決定した。	**健全育成** ①小学校では、地域行事に参加する児童が、昨年度よりも増えてはいるがまだ少ない。さらに増やすとともに、地域行事に参加する意義を理解させ、地域行事、活動の担い手とさせていく。また、保護者に対しても、地域行事、活動に参加する意義を啓発していく。 ②いじめ撲滅スローガン「みんなの気持ちを大切にして、笑顔を増やそう」を、更に浸透さていく。

検証項目	（５）コミュニティ・スクールの運営 ○　コミュニティ・スクール委員会の組織・運営　　○　保護者、地域住民の学校運営への参画の状況 ○　学校と保護者、地域住民との連携・交流　　○　その他
目標	①サポート隊の人財確保 ②CS委員会活動のアピール
取組	①－１学生による学習ボランティアの拡大を図る。 ①－２人財確保のための広報活動を行う。 ②CS委員の活動に対する地域・保護者の関心・参加率拡大のためのPRを充実させる。

成果	課題と改善方策
①サポート隊の活動が日常化し、定期的な協力が得られるようになった。また、教員も積極的に依頼する体制が構築された。 ①ICU学生が定期的に学習のサポートに入ったり、「けやきっず」の活動のサポートに加わったりするなど、放課後の活動がおおさわ学園の特色となっている。 ①人財確保のための講座も開催し、サポート隊の意義等を広く周知できた。 ②学校だよりをはじめ、折に触れてCSの活動を紹介できた。CSだよりを読んでいるという回答が増えた。 ②CS委員会のHPの更新、学園通信でのCSの取組コーナーの新設を行い、配布数も増やし、CSの諸活動の「見える化」を推進した。	①サポート隊参加の保護者への負担が一部の方に集中し過ぎないよう、募集の仕方などを工夫し、新たな人財確保に努めていく。 ①学習ボランティアを活用した授業改善に努め、学力向上につながるサポート体制を作っていく。 ②CS活動に対する保護者の理解度は決して高くない。今後も、いろいろな方法でPRを続け、「CSの見える化」を図っていく。 ③CSのHPの更新は定期的に実施できたが、今後は、閲覧していくための広報活動が必要である。

平成27年度　おおさわ学園の評価・検証結果のまとめ

（１）から（５）の検証結果を踏まえて	１　「小中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと 「小・中一貫教育」①2年間の「確かな学力をはぐくむ」研究については、算数・数学に特化して問題解決型学習の指導方法を作成し、児童・生徒への定着を図り、実践を進めることができた。同時に家庭学習の定着のための取組も家庭への周知度が増えている。かつ、放課後の学生サポートが定着しつつあり、学力向上への確かな手がかりとなりつつある。 ②生活指導、交流活動、キャリア教育、防災教育で学園として取り組むことができた。 「コミュニティ・スクール」①サポート隊の活動が日常化し、学習、行事、部活動等、学校教育全般にわたって定期的な活動として定着している。 ②児童・生徒のボランティア活動、HPの更新回数増、コミュニティ・スクール便りの配布数増等、活動の「見える化」を図り、認知度を高めた。
	２　今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること 「小・中一貫教育」 ①問題解決方学習では、算数・数学では大きな指導方改善につながったが、他教科についての改善につなげるため、来年度の取組こそが重要と考える。 ②交流活動について、学習意欲、自己有用感を高める視点で見直しをする。 ③特別支援教育の学園として交流を充実させる。 ④防災教育を学園として実施すると共に、地域とも連携を図る。 「コミュニティ・スクール」 ①サポート隊の活動に関わるメンバーを増やす。 ②コミュニティ・スクールの活動の「見える化」を進めると共に「理解度」「参加度」を高める。
	３　「２」の重点課題を解決するための改善策 「小・中一貫教育」 ①学園研究で算数・数学の教員を指導員として、他教科の問題解決型研究授業を行う。 ②中学3年生は、4年生と「俳句作り」の交流活動を続行し、中学1，2年生は小学校1年～6年までの授業交流を行う。 ③特別支援教育の学園としての研修と交流の年間計画を作成する。 ④防災教育の学園としての年間計画を、CS委員会、地域の防災対策本部と作成し、実施する。 「コミュニティ・スクール」 ①サポート隊の活動に関しての広報活動をCS，学校が一体となって取り組む。 ②コミュニティ・スクールの活動の広報活動を続行し、「見える化」をさらに進める。